

火災に強い地域をつくる

10 消防活動力をアンケートで把握する

伝建地区を火災から守る対策の方法を、初期火災から延焼危険に迫られた段階まで、火災の進行段階に対応させて、検討する。初期消火に関しては、火災発見者(主に住民)の消火活動力と初期消火設備から評価を行い、活動力については、アンケートやヒアリングによる調査、消火設備については消火可能範囲の検証を行った。また、市街地での延焼については、延焼シミュレーションによる延焼動態を検討し、更に延焼シミュレーションを防火補強改修による延焼抑制効果の検討にも活用した。

住民の自衛消防による消防活動力に関しては、伝建地区とその周辺において、住民の防災意識や防災対策に関する意向把握を目的としたアンケート調査を行った。アンケートは、対象市街地の各町内会長へ防災事業の目的やアンケートの趣旨について説明を行い、各町内でアンケートを配布・回収した。アンケート項目は、①回答者の年齢・居住形態、②家屋の使用状況、③防災意識、④過去の災害事例等について、選択式・記述式の設問を使い分けている。以下に嘉右衛門町伝建地区とその周辺で行ったアンケート表紙(図1)と実施範囲(図2)を示す。



図1 嘉右衛門町アンケート表紙

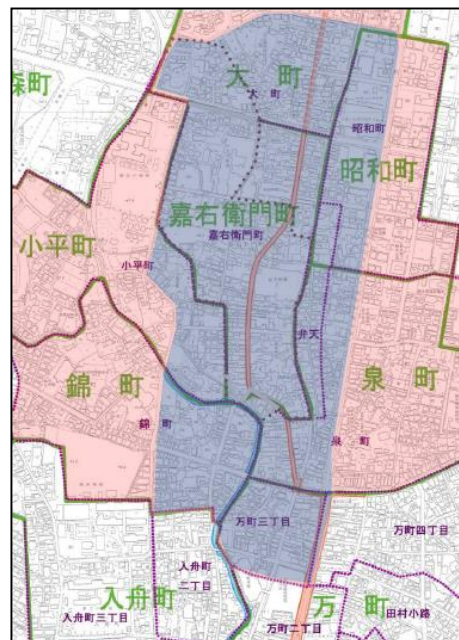


図2 嘉右衛門町アンケート実施範囲

■自主防災組織(住民)

自主防災組織は、消防団とは別にそれぞれの地区で町内会や自治会ごとに結成、活動が行われる。活動はそれぞれの規約に基づくものであり、地域ぐるみの防災活動の基盤となるものである。この活動を地域のコミュニティとしての様々な活動と組み合わせると同時に、消防団や地域の様々な団体と連携することが防災活動にとって重要な要素となる。調査対象地域は、複数の町丁目で構成されており、アンケート調査実施当時は大町と泉町については、自主防災組織が設置されているものの、嘉右衛門町地区など自主防災組織が存在しない自治会もあった。この地区およびその周辺の住民に対して、防災意識や防災対策に関する意向の把握を目的とし

て、栃木市教育委員会の協力のもと、各町内会長への本防災事業の目的やアンケートの趣旨、調査途中経過について説明を行い、それぞれの町内へアンケートを配布した。ここでは、アンケートの内容のうち、住民による自主防災組織の活動力の指標ともなる“高齢化”と“隣三軒顔見知り(近隣関係)”について述べる。

(高齢化)

住民による自主防災組織を考える際、その活動力の基盤となる住民の年齢構成は重要な検討事項である。アンケートにて、住まいの方の人数・年齢を把握した所、図3に示す結果となった。住民の年齢については、65歳以上の高齢者は、全体では428人(36%)、75歳以上のいわゆる後期高齢者も全体で21%と総じて調査時期の全国平均に対して5割ほど高い結果となった。一方で、64歳以下の人口も一定量存在し、住民の活動による自主消防体制を築くことも可能だと考えられる。

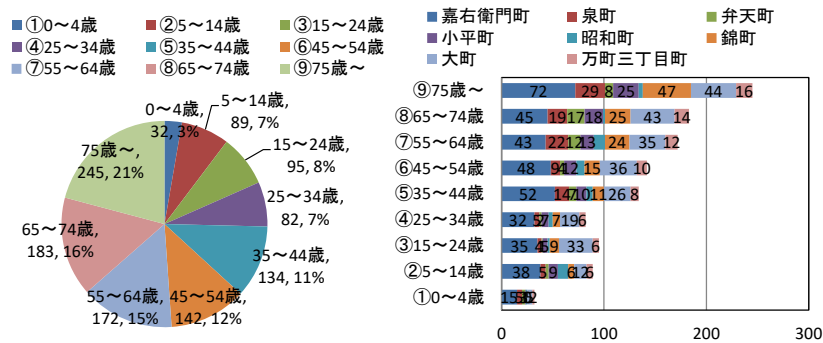


図3 住民の人数と年齢【全体:n=1174】

(隣三軒顔見知り)

住民による自主防災組織を構築しようとする際、住民の世代構成と共に、消防活動時の協力体制を築く基盤が整っているか否かが重要な要因となる。その指標として、近隣世帯に誰が住んでいるのかを把握しているか、また知り合いなのかという隣三軒顔見知りの程度が挙げられる。アンケートにて、住まいの『向こう三軒両隣』が顔見知りか否かを把握した所、図4に示す結果となった。

消火・避難活動を行う際に、近隣住民同士の協力は必要不可欠であり、近所との協力体制が災害時の対応に有用に寄与する。本地域では、全447世帯中404世帯(90%)で向こう三軒両隣が顔見知りであるという結果となり、他の地域と比較して、隣近所との協力体制は築きやすいと言える。

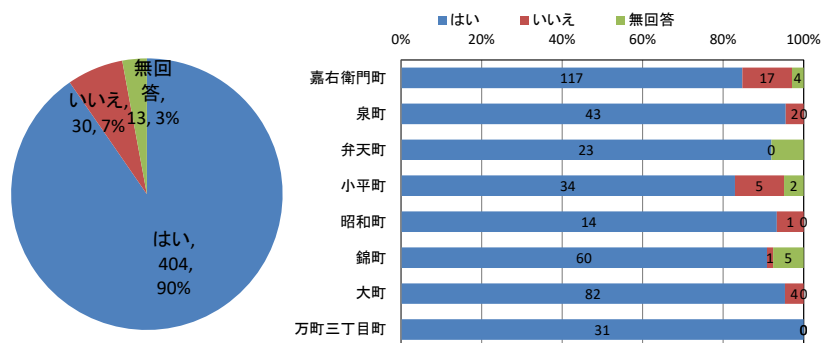


図4 向こう三軒両隣の顔見知りの有無【全体:n=447】

参考文献 (下線の文献は本項に関する発表論文等を示す)

- 1) 田所玲奈,長谷見雄二,大橋好光,横内基,石塚正浩,池田成介:栃木市嘉右衛門町伝統的建造物群保存地区及びその周辺地区の防災計画の検討、日本建築学会関東支部研究報告集 84(I), pp.673-676、2014年2月
- 2) 池田成介,長谷見雄二,横内基:周辺の市街化が進む歴史的市街地における火災リスクの把握~栃木市嘉右衛門町建地区におけるケーススタディ~,日本建築学会大会学術講演梗概集、防火、pp.9-10、2014年9月